

被災地の墓地復旧支援に取り組む

おお ば
大場

たかふみ
貴文さん

(南区)

県石材組合青年部長。青

年部の有志とともに、東日本大震災で被災した宮城県石巻市に足を運び、墓地復旧の手助けをしている。37歳。

―被災地の現状は。

「数百キロから1トもある墓石が大津波で数十センチも流され、あちこちに散らばった状態。重くて危ないので



この人

素人には動かせず、今も多くの墓地が手付かずのままになっている」

―支援の内容は。

「日本石材産業協会の呼

び掛けでこの1年間に3回、全国から石材職人が集まった。流された墓石を探してクレーンで元の区画に戻す作業。石材職人の技術

と経験が求められる。静岡県県からは昨年11月と今年3月、県石材組合青年部の有志が現地入りした」

―活動の意義は。

「被災した檀家(だんか)さんが作業を見守り、『ありがとう』と言ってくれたのが印象的だった。自宅を失った方々にとってお墓は大切な心のよりどころ。今後もし仕事の合間に機会を捉えて被災地に通い、少しでも復旧のお手伝いをしていきたい」



石材職人になる前は銀行マンの経験も。